ITP-AA 派遣報告書
報告者:山﨑美保
派遣先:ジョグジャカルタ
派遣期間:2010 年 8 月 1 日〜9 月 30 日

今回の派遣は、来年に予定しているジョグジャカルタにあるガジャ・マダ大学（Universitas Gadjah Mada）での研究許可取得、当大学での資料調査が第一目的であった。現地到着後、研究許可申請書を大学に提出し、現在ジャカルタ当局からの許可を待っているところである。

ガジャ・マダ大学では、主に文学部（Fakultas Ilum Budaya）の図書館と考古学専攻図書室（Ruang Jurusan Arkeologi）において資料収集を行った。しかし、文学部図書館には刻文関係の文献があまり無く、研究資料はほとんど入手できなかった。考古学専攻図書室には刻文、古代ジャワに関する文献が多く所蔵されているが、貸し出し中や所在不明のものもあり、閲覧できない文献も多かった。そのため、刻文の専門家であるリブット先生のお宅を訪問し、いくつかの文献を見せて頂いた。

ガジャ・マダ大学のほかに、ジョグジャカルタ古代遺物保存局（Balai Pelestarian Peninggalan Purbakala Yogyakarta）の図書室を訪問し、いくつかの文献を閲覧させて頂いた。刻文に関する資料としては、2007 年に当局が発行した *Pusaka Aksara Yogyakarta; Alih Aksara dan Alih Bahasa*（ジョグジャカルタの文字の遺産；翻字と翻訳）が有益である。これは当局に保管されている刻文のローマ字転写・インドネシア語訳を含む情報が記載されている。翻字・翻訳はすべてインドネシア人研究者によって行われている。

今回集めた文献の多くは、刻文に関するものであり、特に古ジャワ文字についての論文は、来年のガジャ・マダ大学での研究に大いに貢献すると思われる。

図書室での文献調査のほかに、現地の博物館、遺跡の調査を行った。ジョグジャカルタのソノブドヨ博物館（Museum Sonobudoyo）、プランバナン考古博物館（Museum Arkeologi Prambanan）、東部ジャワのトロウラン博物館（Museum Trowulan）を訪問した。それぞれの博物館には、いくつかの刻文が展示されていたが、一部を除き刻文の名前を含む情報が一切明記されていなかった。今回の調査で改めて実感したのは、博物館では刻文の詳細が提示されておらず、どの刻文がどこに所蔵されているのか、断定することが難しいことである。刻文の所蔵場所に関しては、いくつかの文献に情報があるが、いずれも 10 年以上前に発行されたものであり、再調査が必要である。各博物館には、おそらく刻文の所蔵リストが存在するが、一般には公開されていない。研究の前段階として、刻文の所蔵場所を再確認し、所蔵リストを作成する必要がある。

遺跡の調査は、ジョグジャカルタ周辺のチャンディ（ヒンドゥー・ジャワ時代の宗教建造物）のほかに、東部ジャワのマラン、モジョクルト周辺のチャンディを対象とした。ジョグジャカルタ周辺のチャンディは 9 世紀〜10 世紀頃、マラン周辺のチャンディは主に 13

世紀～14 世紀頃、モジョクルト周辺のチャンディは 13 世紀～15 世紀頃に建立されてものである。今回調査したチャンディは以下のものである。

〈調査を行ったチャンディの一覧：合計 15〉

名前	所在	建立年代	備考
Candi Kedulan（H）	Kelurahan Tirtomartani, Kecamatan Kalasan	9 世紀頃	雨のため基壇部分まで浸水。チャンディ・サンビサリの構造と類似点が多い。
Candi Ijo（H）	ラトゥ・ボコ周辺 Desa Sambirejo	9 世紀頃	岩盤を切り出して造られたチャンディがある。シヴァ祠堂、３つの副祠堂のほか、複数の祠堂。
Candi Barong（H）	ラトゥ・ボコ周辺 Desa Bokoharjo	9－10 世紀	内部構造を持たない 2 つのチャンディ。
Candi Abang（H）	Desa Jogotirjo, Kecamatan Berbah	9 世紀頃？	レンガ造り。現在大量のレンガがあるのみ。
Candi Banyunibo（H/B）	ラトゥ・ボコ周辺 Desa Bokoharjo	8－10 世紀	主祠堂、6 つの副祠堂。副祠堂は基壇のみ。チャンディはヒンドゥー教の特徴を持つがストゥーパは仏教系。
Candi Kidal（H）	Desa Kidal Kecamatan Tumpang	13 世紀頃	基壇の４側面にガルーダ。
Candi Jago（B）	Desa Jago Kecamatan Tumpang	13 世紀後半	側面に人物、動物等の細かな浮き彫り。
Candi Singosari（H）	Desa Candirenggo Kcematan Singosari	1300 年頃	祠堂側面にアガスティア像。
Candi Sumberawan（B）	Singosari	14 世紀頃？	上部が円形、内部構造のないチャンディ。
Candi Badut（H）	Kelurahan Karang Besuki, Kecamatan Sukun	8 世紀頃？	祠堂北側側面にドゥルガー像。以前は南にアガスティア像、東にガネーシャ像あり。中部ジャワのチャンディと類似。
Candi Tikus（沐浴場形式）	Desa Temon, Kecamatan Trowulan	マジャパヒト時代	レンガ造り。マカラの排水口をもつ。
Candi Bajangratu	Desa Temon, Kecamatan Trowulan	14 世紀頃	レンガ造り。正面左右にレリーフ。寺院でなく寺院の入り口、門。

Candi Brahu（B）	Desa Bejijong Kecamatan Trowulan	14 世紀頃	レンガ造り。トロウランにある他のチャンディより古いと考えられている。このチャンディの前身は 939 年公布のアラサンタン（Alasantan）刻文に言及される寺院か？
Candi Gentong（B）	Desa Jambumente, Kecamatan Trowulan	マジャパヒト時代	基壇と身舎の一部のみ。2 つの祠堂。
Candi Wringinlawang	Desa Jatipasar, Kecamatan Trowulan	14 世紀頃？	中央に階段。伽藍への入り口と考えられる。

＊（H）ヒンドゥー教系のチャンディ、（B）仏教系のチャンディ

これらのチャンディが古代ジャワ社会において、どのような位置づけにあったのかを知るためには、刻文がその資料となるわけだが、今回の調査では刻文に記された寺院と実際のチャンディが同定されたのは 1 例しかない。それはチャンディ・バドット（Candi Badut）で、760 年のディノヨ（Dinoyo）刻文と関係するチャンディである。チャンディ・クドゥラン（Candi Kedulan）の敷地からは刻文が出土しているが、刻文の内容は周辺の村の水に関することでチャンディとの関わりは不明のようである。刻文に出てくる寺院と実際のチャンディを同定することは、刻文の内容をより理解するために重要であり、今後の課題の 1 つである。

今回の派遣では、文献収集と遺跡調査が中心となった。今後の課題として改めて認識させられたのは、まず各刻文の所蔵場所の再調査とそのリスト作成、刻文に記載された寺院と実際のチャンディとの同定である。特に刻文の所蔵調査は私自身の研究にとって最も重要であり、第一課題である。